

令和元年度 保護者等からの事業所評価の集計結果

【児童発達支援】

事業所名 くろかみ学園児童発達支援センター

保護者等数（児童数） 109 回収数 89 割合 81%

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	① 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	74	3	0	12	・広い園庭もあるので、のびのびと過ごせていると思います。 ・確保されている事と思っています。利用前の見学の時、一度だけ見せていただいたが、その後は教室等の見学をしていないのでわからない。 ・実際に見に行っていないので分からない。（②③④も同様）	・基準では、指導訓練室と遊戯室を合わせた一人当たりの床面積は4.12㎡以上です。実際は一人当たり8.97㎡（30名利用の場合）の床面積を確保しています。外ではグラウンドや中庭等も活用し、活動場所を確保しています。 ・年2回ある保護者参観の時に、ご覧下さい。
	② 職員の配置数や専門性は適切であるか	57	3	0	29	・年度始めのお便りに配置職員が記載してあり、解りやすいです。 ・1日の出来事を詳しく分かりやすく伝えていただける方と、簡単に終わられる方といらっしゃるって、そのギャップは大きく感じます。 ・配置数はOKだと思う。	・各クラスに、5～6名担当職員を配置しています。その日の利用人数で職員配置数を決めています。 ・年度始めや職員の異動があった際には、「すまいる」で今後もお知らせします。 ・有資格者を多く配置しています。また、専門性を高めるための研修にも積極的に参加しています。（職員の主な資格） 保育士6名、児童指導員任用資格17名 社会福祉士1名、介護福祉士7名 言語聴覚士2名、看護師4名 （研修参加状況 令和元年度見込み） 年間33件、延べ58名参加 ・保護者様との引継ぎはできるだけ丁寧に行うよう配慮します。
	③ 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境（※1）になっているか。また、障がい者の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	69	4	0	16	・本人が楽しく通えていて、ストレスや不満を感じない為、過ごしやすい環境なんだろうと感じています。（④も同様）	・クラスの特性に応じて、学習の場、遊びの場、食事の場を分けるなど、子ども達にわかりやすい環境設定を心掛けています。 ・センター内はバリアフリーの構造になっています。 ・年2回ある保護者参観の時に、ご覧下さい。
	④ 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	72	3	0	14		・季節に合わせて掲示を工夫するなど、季節を感じてもらえるようにしています。 ・子どもたちの作品も掲示しています。管理棟廊下に掲示してありますので、お時間がある時にいつでもご自由にご覧下さい。
	⑤ 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（※2）が作成されているか	82	5	0	2	・子のニーズ、課題は反映されていると思うが、親のニーズに対してのアプローチは無いように感じる。（計画には反映されていない）	・お子様と保護者様のニーズや課題をお聞きし、課題にあった児童発達支援計画を作成するよう心掛けています。 ・保護者様のニーズにも応えられるよう配慮致します。計画の内容にご質問等ございましたら、いつでもお尋ね下さい。変更も可能です。

適切な支援の提供	⑥	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	74	5	0	10	・設定はなされているが、支援の提供（実態）にはあまり（全く？）結びついていない項目があると感じる。（⑦も同様）	・児童発達支援ガイドラインの支援内容から、お子様に必要な支援項目を選択し、支援計画を設定しています。 ・できるだけ実態にあった支援内容を作成する様に心掛けていますが、支援内容で疑問点などございましたら、いつでもお尋ね下さい。変更も可能です。
	⑦	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	77	4	0	8	・あくまでも計画であり、子どもの様子を見て変わることもあるかもしれないので。	・各クラスで児童発達支援計画に沿った支援を心掛けています。 ・お子様の状態で、支援内容が大きく変更する場合は、計画の変更を致します。
	⑧	<u>活動プログラム（※3）</u> が固定化しないよう工夫されているか	72	6	0	11	・センター以外での活動も多く、色々な経験をさせてもらい、何をしたらのか報告を聞くのが楽しみです。	・活動プログラムは、クラス毎に年間計画を作成し、活動が固定しないように心掛けています。 ・連絡帳でその日の活動をお知らせしています。
	⑨	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	56	5	5	23		・96%のお子様は併行通園（保育所等へも通園）されているため、保育所等との交流は設定していません。
保護者への説明等	⑩	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	83	3	1	2		・丁寧な説明を心掛けていますが、ご不明な点がありましたらいつでもご質問下さい。また、利用者負担については事務員にお尋ね下さい。
	⑪	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか	83	3	1	2		・ガイドラインの項目も含めて、支援内容の説明をするように配慮します。
	⑫	保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング（※4）等）が行われているか	52	9	6	22	・研修会等の実施はないが、送迎時に相談した際には、関わり方等のアドバイスをいただいたり、研修等のお知らせや心理相談の実施等でしっかり行っていると思っています。 ・親が学ぶ場を作っていただきたいです。 ・保護者向けの子どもへのほめ方など、センターではこの様に行っているなどの勉強会等をして欲しい。	・現在のところペアレント・トレーニングについては、積極的な支援はできていないため、他の機関が実施している研修会のご案内をしています。 ・次年度は、保護者様向けの研修をセンターで実施できるよう、現在検討中です。

⑬	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか	73	11	1	4	・センターに直接迎えに行く日は、情報共有できていると思います。 ・お迎えの際に、活動の様子などをお話して頂くので助かっています。 ・定期的にTELあり。 ・子どもに少しでも何かあれば、細やかに伝達してもらい、センターでの様子がよく分かる。 ・こども園の送迎を依頼しているので、センター職員の方と情報伝達する場（時間）を持っていないのが現状。	・送迎時は、他のお子様を乗せていたり、その後放課後デイの学校お迎えがあったりと、ゆっくりお話しする時間はないかと思っています。ぜひお伝えしておきたい事があった時には、電話連絡等でお伝えします。 ・連絡帳や電話連絡等で、保護者様との情報共有ができるよう、配慮致します。
⑭	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	80	6	1	2	・個人面談は、半年に1回ほどあるが、もう少し時間をとってもらいたい。 ・定期的にTELあり。 ・困ったことだけでなく、できるようになったことなど子どものことをよく認めてもらい安心してお願いできる。 ・参観日などは極力行くようにしているが、課題の共有理解や育児の助言等の支援ができているとは思えない。親としても忙しさを理由に、中々職員さん（センター側）と時間を共有することができないので、申し訳ないと思っています。	・個人的にご相談があった時などには対応できるよう配慮しています。個人面談は、2月に希望者で実施しています。令和元年度実績は81名です。 ・個人面談日以外でも、担当職員と調整をして面談等を行う事は可能です。何かご相談したいことなどございましたら、何時でもお申し出下さい。
⑮	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	27	15	11	36	・保護者間のつながりが少ないので、情報共有のような機会をつくっていただきたいです。 ・保護者会が行われているか知らない。 ・まだ入所したばかりなので、2月の保護者参観等でよりわかると思います。	・父母の会や保護者会はありませんが、療育参観の時に、保護者様同士が話し合う機会を設定致します。
⑯	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応しているか	71	5	0	13	・1度利用させていただきましたが、心理相談の実施でゆっくりと相談する機会があり、対応されていると思います。	・保護者様からご相談があった際には、できるだけ早急に対応できるよう配慮しています。お子様に関するお悩み等ございましたら、児発管又は各クラスの職員へいつでもお申し出下さい。
⑰	子どもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	73	5	1	10	・手紙や電話など、子どもの様子を報告してもらい安心できる。 ・この1年ですごく成長を感じたので、もっとこの子のことを知りたいので、もっともつと子のことを教えてほしいです。	・連絡帳の記載欄が少なく、十分にお子様の様子をお伝えできていないところもあるかもしれません。保護者様と情報共有できるよう、配慮致します。
⑱	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	84	0	0	5	・毎月渡される「すまいる」を楽しみにしています。 ・「すまいる」や毎月の写真（イベント時の写真）などで、子の楽しそうな表情や見たことのない表情を見れるのはとても嬉しいです。	・今後もセンター便り「すまいる」やホームページ等で、活動の様子をお知らせします。 ・行事があった時などは、ホームページにその様子を掲載しておりますの、是非ご覧下さい。（お子様の顔は、わからないようにしております） ・自己評価の結果は、ホームページに掲載し、保護者様には紙面でお知らせしています。

	⑱	個人情報の取扱いに十分注意されているか	72	4	0	13	・十分注意されていると思うが、よく分かりません。 ・写真の使用許可などは、書面にて同意を得た方が良いのでは？（電話連絡はあったが。→法人の機関紙「ひらけごま」で使用）	・個人情報の取扱いについては、十分注意するよう全職員に周知徹底しております。不十分な点もあるかと思います。取扱には十分気をつけます。 ・法人の機関紙やホームページにお子様を掲載する際は、お子様が特定できないよう写真を加工するなど配慮致します。
非常時等の対応	⑳	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか	49	5	2	33	・災害時などに、センター以外が避難場所になっているのなら場所を保護者に伝えてもらえると助かります。災害時は電話も繋がらないと思うので、前もって説明があると安心だと思います。	・各マニュアルは整備し、年数回訓練を実施しています。防犯マニュアルについては、外部への公表は控えていただいています。 ・感染症が発生した時には、感染のリスクの高いお子様の保護者様にはお伝えしています。 ・水害など早めに対応ができるものは、送迎を早めるなどの対応し、できるだけ保護者様の元に安全にお子様をお返しするように決められています。（安全が十分に確保できた場合です） 保護者様の元に安全にお返しするのが困難な場合は、センターでお子様をお預かりします。橘町の避難場所は、橘公民館となっておりますが、センターは鉄骨作り（地震にもある程度の強度があります）で、建物の建っている場所は土砂災害や水害などの災害に遭いにくい立地です。センター内には 30 名分の食料（3 日分）や夜具、簡易トイレを常備しています。
	㉑	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	45	5	1	38		・火災避難訓練は年 2 回、不審者対応訓練は年 1 回、災害時対応訓練は年 1 回実施しています。お子様の利用日に必ず訓練があるとは限りません。申し訳ございません。
満足度	㉒	子どもは通所を楽しみにしているか	81	6	1	1	・担当の先生と子どもの間にしっかりと信頼関係が築けている様で、先生方の関わりに感謝致しております。（㉓も同様） ・毎週とても楽しみにしています。 ・とにかく楽しく通所してくれて安心していきます。 ・職員さんの名前を言って、「今度、〇〇さんと△△するんだ！」と次の通所を楽しみにしています。	・お子様が「楽しい」と感じることができるよう活動を工夫し、実践出来るよう心掛けます。
	㉓	事業所の支援に満足しているか	78	10	0	1		・お子様との信頼関係を築き、お子様一人ひとりを大切にしたい、楽しい療育を目指します。今後も支援技術の向上を目指し、職員一同研鑽して参ります。 ・お子様の小学校進学に向けて、つけておきたい力を保護者様と共に考え、お子様の成長を支援していきます。 ・保育所等の先生方とも情報共有をして連携を図ることで、お子様にあった支援の統一を図ります。

- ※1 「本人にわかりやすく構造化された環境」は、この部屋で何をするのかを示せるように、机や本棚の配置など、子ども本人にわかりやすくすることです。
- ※2 「児童発達支援計画」は、児童発達支援を利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のことです。これは、児童発達支援センター又は児童発達支援事業所の児童発達支援管理責任者が作成します。
- ※3 「活動プログラム」は、事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のことです。子どもの障害の特性や課題等に応じて柔軟に組み合わせられて実施されることが想定されています。
- ※4 「ペアレント・トレーニング」は、保護者が子どもの行動を観察して障害の特性を理解したり、障害の特性を踏まえた褒め方等を学ぶことにより、子どもたちが適切な行動を獲得することを目標とします。